

学位論文要約

ESD の視点を取り入れた地理教育改革
ードイツ地理教育を事例としてー

広島大学大学院 教育学研究科

文化教育開発専攻

阪上 弘彬

2016

I. 論文題目

ESD の視点を取り入れた地理教育改革
ードイツ地理教育を事例としてー

II. 論文目次

序章 本研究の背景・目的・特質・方法

- 第一節 本研究の背景と目的
- 第二節 本研究の特質と意義
- 第三節 本研究の方法

第一章 世界の地理教育改革と ESD

- 第一節 世界の地理教育の系譜とターニングポイント
 - 第一項 20 世紀中頃から 20 世紀末までの地理教育
 - 第二項 20 世紀末から 21 世紀初頭の地理教育
- 第二節 地理教育のターニングポイントとしての ESD
 - 第一項 地理教育におけるターニングポイントの特徴
 - 第二項 地理教育とユネスコとの関わり
- 第三節 諸外国における ESD の展開・特徴と地理教育
 - 第一項 北米地域
 - 第二項 ヨーロッパ地域
 - 第三項 アジア地域

第二章 国際地理学連合・地理教育委員会による地理教育振興策と ESD

- 第一節 国際地理学連合・地理教育委員会の活動方針
- 第二節 国際地理学連合・地理教育委員会の地理教育振興策
 - 第一項 国際地理学連合・地理教育委員会による地理教育振興策としての諸宣言
 - 第二項 地理教育国際憲章
 - 1 地理学を基盤とする到達目標
 - 2 地理教育国際憲章に内在する ESD の観点
 - 第三項 持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言
 - 1 顕在化した ESD の観点によるカリキュラム編成の変化
 - 2 ESD 実践のための地理的能力
- 第三節 諸宣言にみる国際地理学連合・地理教育委員会の地理教育観とドイツへの影響
 - 第一項 国際地理学連合・地理教育委員会の諸宣言の一貫性した理念

第二項 ドイツ地理教育への影響

第三章 連邦レベルにおけるドイツ地理教育の系譜と ESD の取り組み

第一節 ドイツ地理教育におけるレールプランの変遷と ESD

第一項 レールプランを取り巻く環境

第二項 地理レールプランの変遷と特徴

第三項 PISA ショック以降のカリキュラム概念変革とコンピテンシー

第四項 持続可能な開発に関する国際動向とドイツ地理教育の対応

第二節 ESD における教育学と地理学の役割

第一項 一般教育学からのアプローチ

1 ドイツ社会・政策における持続可能な開発の起源と受容

2 ドイツにおける持続可能な開発と教育

3 ドイツにおける ESD 展開の特徴

第二項 専門科学としての地理学からのアプローチ

1 地理教育において地理学が果たす役割

2 橋渡し機能と人間-環境関係

3 空間に対する多様な見方・考え方

4 持続可能な開発に対する地理学からのアプローチとその意義

第三節 ドイツ地理教育スタンダードの導入と ESD

第一項 ドイツ地理教育スタンダードの特徴

1 一貫した地理授業の目標

2 システムとしての空間

第二項 持続可能な社会を目指すドイツ地理教育スタンダード

第四章 州レベルの地理教育における ESD 実践の特徴

第一節 州レベルにおける地理教育の概要

第一項 各州における地理の位置付け

第二項 地理教科書における内容構成

第三項 地理学習における共通目標

第二節 バーデン＝ヴュルテンベルク州における地理学習と ESD

第一項 統合教科「地理-経済-共同社会」の概要

第二項 地理分野における目標

第三項 地理分野における学習内容・コンピテンシー

第三節 BW 州地理教科書『TERRA』にみる地理学習・ESD の特徴

第一項 BW 州『TERRA』の全体構成と持続可能な開発の学習

第二項 単元「持続可能な都市開発」における ESD の学習

終章 地理教育改革において ESD が果たす役割と展望

第一節 地理教育改革において ESD が果たす役割と ESD の視点の導入による地理教育の変化

第二節 本研究の展望と課題

III. 論文要旨

序章 本研究の背景・目的・特質・方法

本研究の目的は、近年各国で取り組まれる持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development, ESD)の視点を取り入れた地理教育改革について、ESD 先進国であるドイツ地理教育における近年の動向を検討し、地理教育改革において ESD が果たす役割並びに ESD の視点を取り入れたことによる地理教育の変化について明らかにすることである。

ESD の目標は、地球的視野で考え、様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組み、持続可能な社会づくりの担い手となる市民を育成することにある(「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁連絡会, 2006, p.6)。ESD は、2002 年の持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルク・サミット)において日本政府によって提案され、主導機関である国連教育科学文化機関(UNESCO)は、2005 年から 2014 年までの 10 年間で「国連持続可能な開発のための教育の 10 年(UN Decade of Education for Sustainable Development, UNDESD)」として定め、ESD の推進に努めた。

持続可能な開発の達成、持続可能な社会の形成のために、「国連持続可能な開発のための教育の 10 年(2005~2014 年)国際実施計画(UNDESD-IIS)」では、「教育について疑問を持ち、再考し、修正し、環境、経済の各領域における持続可能性に関連するより多くの原則、知識、技能、洞察力、価値観を教育に取り入れることが、私たちの現在そして社会にとって必要である」(佐藤・阿部, 2006, p.191)と示している。また ESD の学習過程で求められる要素は、多岐にわたる課題について、各学問の視点を用いて、多様な学習方法によって多面的・批判的に分析や解決案を提案し、学習者に意思決定させ、価値観などに変化をもたらすことを想定したものとなっている。

日本では平成 20 年、21 年版学習指導要領において、「持続性」と「持続可能な社会」という視点が中学校社会科や高等学校地理歴史科、理科などの教科を中心に明記された。地理教育の分野においても ESD の理論や実践の在り方に関する議論され、多様な研究が展開した。代表的な研究としては、中山ほか編(2011)がある。同研究では、地理教育における ESD カリキュラム開発を視野に入れ、学習指導要領における ESD の位置付け、地理における教材開発の目標、内容、方法等の理論、小学校から大学までを対象にした ESD 実践、海外に

における ESD の取り組みの現状を明らかにした。そのほかには、新学習指導要領に準拠した ESD の授業実践研究(中山ほか編, 2012 ; 泉ほか編, 2012)などがある。

日本では ESD が地理学習で扱う学習内容として位置づけることができる一方で、ESD は既存の教育に対して変革を求めており、また ESD に取り組む地理教育に対しても変革を迫っている。では、ESD の視点を取り入れることにより地理教育はどのように変化しているのか。本研究では、ESD による教育改革が進むドイツ連邦共和国の地理教育を対象として、ESD の視点を取り入れた地理教育の特徴を明らかにして、日本の地理教育の改善に貢献することを研究目的とする。

ドイツは「ヨーロッパにおいて ESD の推進が先行している国のひとつ」(卜部, 2011)であり、ドイツの基本法(憲法)のなかには「持続可能性」の概念が組み込まれている。トランスファー21 (2012, p.14)は「ESD は単に SD の理念と具体像を教えるだけの教育だけではなく、SD を支えるための行為規範を与える教育であるべきとされる」と指摘し、行動規範を育成する観点から ESD が推進されており、それを旨とした計画書・指針が発表されている点も注目に値する。

本研究の方法は次のとおりである。

第一章では、第二次世界大戦以降の世界の地理教育の歴史の整理から地理教育のターニングポイントとしての ESD を位置づけ、いくつかの地域の地理教育を取り上げて ESD が与えた影響について考察した。第二章では、IGU-CGE の諸宣言の分析から、地理教育における ESD 実践の視点を明らかにするとともに、IGU-CGE のもつ地理教育観を明らかにした。またドイツ地理教育を対象に、諸宣言がどのように影響したかについて検討した。第三章では、連邦レベルにおけるドイツ地理教育を対象に、地理カリキュラムの変遷から、ESD 登場の背景を明らかにするとともに、カリキュラムに影響を与える一般教育学と地理学の視点から ESD 実践のアプローチを整理した。第四章では、州レベルにおけるドイツ地理教育の状況を整理するとともに、バーデン＝ヴュルテンベルク州の地理教育を事例に、州レベルプラン並びに地理教科書の分析から、ESD 実践の特徴について分析した。

第一章 世界の地理教育改革と ESD

第一章では、世界の地理教育における改革の歴史を整理し、地理教育改革における ESD の位置付けについて明らかにした。

世界の地理教育の歴史・ターニングポイントを研究した Stoltman(2006)を参考に、この研究が UNDESD 開始直後のものであることを考慮し、最近の地理教育の動向を検討しながら、世界の地理教育における改革の背景や動向、地理教育における ESD の視点を整理した。そのうえで北米、ヨーロッパ、東・東南アジア地域の地理教育を対象に、その地域における ESD の観点や展開状況、地理教育における ESD の観点や特徴について検討した。

世界の地理教育における過去のターニングポイントの特徴としては、大きく「地理学にお

ける変化」,「社会や地球規模の問題に対応するために登場した教育課題(環境教育や国際理解教育など)」の2点を挙げることができた。また地理教育改革におけるESDの位置付けを検討した結果,ESDは「社会や地球規模の問題に対応するために登場した教育課題」に位置づいていると指摘できた。また,戦後の地理教育はユネスコとの密接な関係を築き,国際地理学連合・地理教育委員会(IGU-CGE)は,ユネスコ憲章等の支持やユネスコの国際理解教育に対して積極的に取り組んできた。ESDがユネスコを主導機関として展開される教育の取り組みであることから,ESDは地理教育が取り組む必然性を有していることがわかった。

ESDの影響については,北米地域では,地理教育と環境教育の連携強化,ヨーロッパ地域においては,地理教育の役割の変化,アジア地域においては,グローバル化の中で進められた教育改革において,地理教育の有用性を示すといった点で,ESDが各地域の地理教育に対して影響を与えていることを明らかにした。

第二章 国際地理学連合・地理教育委員会による地理教育振興策とESD

第二章では,国際地理学連合・地理教育委員会(IGU-CGE)の地理教育振興策に焦点を当て,国際的なレベルにおけるESDに対する地理教育の取り組みの指針と,IGU-CGEの活動に対して積極的な反応を示すドイツ地理教育との関係について明らかにすることを目的とした。

IGU-CGEでは4年ごとに開催される国際学会本大会や2年ごとの地域大会の時に,地理教育振興策の一つである諸宣言を公表することで,地理教育の取り組みや実践の指針を示している。本章では,その諸宣言のなかでもESDに関係の深い2つの諸宣言(「地理教育国際憲章」,「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言」)における諸宣言の地理的能力の特徴について分析した。

「地理教育国際憲章」における到達目標をみると,地理教育の方向性として「地理学の五大テーマ」を根底にした地理的知識を用いて,多様なスケールから問題を発見,分析を試み,世界基準の普遍的価値を判断基準として地域スケールに適した行動ができる地球的市民の育成を目指していることが明らかになった。

「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言」は,「地理教育国際憲章」を基礎としながらも,ESDの観点が盛り込まれたことで,学際性の考え方,カリキュラムにおける地理の位置づけに大きな変化がみられた。また地理的能力においては,持続可能な社会を担う市民の育成を視野に入れながらも,その市民を育てる土台となる社会を理解するための知識や概念,技能が,簡潔に定義されていた。

諸宣言が示す地理教育の背景には,地球規模における普遍的な価値や倫理を根底とした一貫した地理教育の目標をIGU-CGEが掲げているためである。Haubrich(2009)は,「地理教育はよりよい現代,将来世界のために若い世代を教育することによって重要な役割を果たしている」と述べ,その目標のために地球的倫理と適切な教科コンピテンシーが必要であ

ると指摘している。また「社会や環境の変革に対する積極的なアプローチは委員会の宣言の重要な要素である」(Haubrich, 2009)と述べていることから、これらの価値や倫理を用いての社会変革を行うことのできる人間を育成することに最終的な目標が置かれていることがわかった。

IGU-CGE 諸宣言を、自国の地理カリキュラムあるいは地理教育研究において取り組んできたのがドイツである。この背景には、IGU-CGE の委員長(1988-1996)を務めた H. Haubrich(フライブルク教育大学)の影響があると考えられる。彼は「地理教育国際憲章」の原案を作成(中山訳, 1993)するとともに、ドイツ国内のカリキュラム作成に関わってきた。Haubrich が作成に関わった「地理教育国際憲章」は、同宣言の公表以降ドイツ国内で作成された地理カリキュラム等において参考、あるいは地理教育の目標として示されているなど、IGU-CGE がドイツ地理教育に対して影響を与えていることがわかった。

第三章 連邦レベルにおけるドイツ地理教育の系譜と ESD の取り組み

第三章は、連邦レベルのスケールからドイツ地理教育における ESD の実践の背景や要因について明らかにするとともに、『ドイツ地理教育スタンダード』の特徴と ESD の関係について明らかにすることを目的とした。

最初に学習の方向性を規定する地理レールプランの変遷を検討し、地理教育と ESD の接点について考察したうえで、地理レールプランの作成に影響を与える教育学と地理学の視点から、持続可能な開発や ESD に対するアプローチや展開・成立について明らかにした。この考察結果をもとに、ドイツ地理学会(DGfG)によって作成された『ドイツ地理教育スタンダード』の特徴と ESD とのつながりについて検討した。

ドイツの地理レールプランは、学校教科としての地理科が成立して以来、地理レールプランは様々な変遷をたどってきたが、ESD の視点は 1990 年代における持続可能な開発に関する議論の時から、社会的要請や国際的な地理教育の動向の影響を受け、地理レールプラン中に盛り込まれた。持続可能な開発を含めた ESD に関する議論は、地理レールに影響を与える一般教育学と地理学からもなされていた。一般教育学の領域では、1990 年代に ESD が概念的に展開し、学校教育における実践的な ESD プロジェクトを経て ESD で育む能力である「形成能力(Gestaltungskompetenz)」が規定された。また ESD の展開に当たっては、PISA ショック以降展開した教育改革が深く関係していた。地理学においても「人間-環境」やそれに基づいた持続可能な開発の考えが重視され、ドイツ地理学で議論された「社会-環境研究モデル(Gesellschaft-Umwelt-Forschung)」や空間の多様な見方・考え方である「空間概念(Raumkonzept)」が、『ドイツ地理教育スタンダード』中に獲得すべきコンピテンシーの一部として、あるいは学習方法として盛り込まれた。

最後に『ドイツ地理教育スタンダード』について検討した結果、同スタンダードにおける ESD の貢献点については、地理学のもつ学際性、システムとして空間を捉えることが指摘できた。また同スタンダードが示す目標の検討から、空間形成能力を活用することで持続可

能な社会に変革する能力をもった市民を育成することが、可能であることがわかった。

第四章 州レベルの地理教育における ESD 実践の特徴

第四章では、第三章の連邦レベルにおける ESD の取り組みを受け、州レベルの地理学習における ESD 実践の特徴についてギムナジウム前期中等地理教育を対象に、明らかにすることを目的とした。

本章では、独立科としての地理が多いギムナジウムにおいて、PISA ショック以降改訂されたルールプラン『教育スタンダード(Bildungsplan)』より、地理と公民分野が統合した統合教科「地理・経済・共同社会(GWG)」が誕生したバーデン＝ヴュルテンベルク州(以下、BW 州とする)に焦点を当て、『教育スタンダード』、BW 州地理教科書『TERRA GWG Geographie-Wirtschaft Gymnasium Baden-Württemberg』(以下、BW 州『TERRA』とする)を分析した。

BW 州では地理分野だけでなく、GWG 全体として持続可能な開発に教育できる行動に関する知識を育成することが掲げられており、教科横断的な学習内容においても持続可能な開発に関するものを『教育スタンダード』中にみることができた。また地理分野では、ESD に関係する地球規模の課題に関してみると、7/8 学年以降に設定されており(例えば、「一つの地球一つの世界」、「世界的な移動」、「大気危機と保全」)、各テーマに関連した持続可能な解決策(例えば、持続可能な経済の解決アプローチや持続可能な都市開発など)に関して議論する、あるいは論じるコンピテンシーの育成が目指されていた。

BW 州地理教科書『TERRA』では、『教育スタンダード』にほぼ対応した内容構成・配列を採用している。また ESD に関しては、持続可能な開発に関して学ぶ単元が設定されるとともに、具体的な持続可能な方法を理解する単元と、環境、社会、経済の全領域における持続可能な開発という原則を理解、具体的な事例を活用するという単元に分けることができた。

終章 地理教育改革において ESD が果たす役割と展望

各章の分析結果から、地理教育改革において ESD が果たした役割として、以下の3点が指摘できる。

1 点目は、地理教育の性格に変化をもたらした点である。既存の教育に対して、持続可能性に関連するより多くの原則、知識、技能、洞察力、価値観を取り入れることを ESD は求める。各国の地理教育が ESD に取り組んだことで、これまでの地理教育の在り方を変化させた。とりわけドイツを含むヨーロッパ地域における地理教育は、伝統的に権威があるものとして教授してきた「地理」ではなく、市民を育成するための手段としての「地理的研究」のスキルの学習や思考力の育成にその性格を変化させており、その傾向が顕著である。

2 点目が、地理教育のもつ総合性や学際性の強化である。地理教育が ESD に貢献できる点の一つとして、地理学の学際性を活用した複数の科学視点から事象にアプローチできることが示されている。また「持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言」で

は UNDES-D-IIS が示す「行動テーマ」の多くが地理的特徴をもつ(大西訳, 2008)ことを提示している。しかし阪上(2012)はこれらのテーマに関して、問題の解決のためには地理だけでなく、個々の問題に応じた専門的視点からのアプローチも必要であることを指摘した。ESD で扱われる諸課題が様々な要因と結びつくため、地理の視点を含めた多様な視点でのアプローチが求められる。

3点目が、持続可能な開発に対する地理学の専門的アプローチが議論され、地理教育に反映された点である。ESD あるいはその中心概念である持続可能な開発は、教育を含め様々な領域・分野において議論されている。「地球の持続可能性を脅かす複雑な諸問題に対処するための教育が、ESD の課題である。これは、教育改革のみでは達成されないであろう。ESD には、持続可能な社会の形成には社会のさまざまな部門による教育が重要であり、他の領域からのアプローチが必要である。

今後の課題としては、以下の2点である。

1点目がドイツ地理教育における具体的な学習過程については十分に示すことができなかった。また州レベルでは BW 州地理学習しか取り上げなかったため、他の州における地理学習の特徴やドイツ地理教育における ESD 実践やカリキュラム構成の特徴については十分に検討できなかった。他の州を研究対象に加え、ドイツの地理教育が ESD に取り組む背景や理論を明らかにすることが課題である。

2点目は、ドイツの分析から得た研究成果を踏まえ、理論と実践の両面から、ESD の視点を入れた日本の地理教育改革に貢献することが課題である。

IV. 参考文献

【欧文文献】

- 1) Alfred-Wegener-Stiftung für Geowissenschaften in Gemeinschaft mit der Deutschen Gesellschaft für Geographie e.V. und dem Institut für Länderkunde in Leipzig(1996):*Leipziger Erklärung zur Bedeutung der Geowissenschaften in Lehrerbildung und Schule.*
- 2) Arbeitsgruppe Curriculum 2000+ der Deutschen Gesellschaft für Geographie(2002):*Grundsätze und Empfehlungen für die Lehrplanarbeit im Schulfach Geographie.*
- 3) Ballantyne, R. and Gerber, R. (2004): Teaching and learning matters. Kent, W. A., Rawling, E. and Robinson, A. eds., *Geographical education expanding horizons in a shrinking world.* Glasgow Scottish Association of Geography Teachers with Commission on Geographical Education.(未見)
- 4) Bagoly-Simó, P. (2013): Lehrplan/Curriculum. Böhn, D. und Obermaier, G. Hrsg. *Wörterbuch der Geographiedidaktik.* Westermann. S.173-174.

- 5) Barker, W. H. (1927): *Geography in Education and Citizenship*. University of London. (未見)
- 6) Bednarz, S. W., Heffron, S. and Huynh, N. T. eds. (2013): *A road map for 21th century geography education: Geography education research*. Association of American Geographers. http://education.nationalgeographic.com/media/file/NGS_RoadMap_GERC_6-21.pdf (2015年7月8日)
- 7) Butt, G., Hemmer, M., Hernando, A. and Houtsonen, L. (2006): Geography in Europe. Lidstone, J. and Williams, M. eds., *Geographical Education in a Changing World*. Springer, pp.93-106.
- 8) Chalmers, L. (2006): International Geographical Education Past, Present and Future. Lidstone, J. and Williams, M. eds., *Geographical Education in a Changing World*. Springer, pp.xiii-xv.
- 9) Deutsche UNESCO-Kommission(2011): *Nationaler Aktionsplan für Deutschland*. Kettler. (Auflage 2)
- 10) DGfG Hrsg.(2014): *Bildungsstandards im Fach Geographie für den Mittleren Schulabschluss-mit Aufgabenbeispielen*. DGfG. (Auflage 8)
- 11) Egner, H.(2010): *Theoretische Geographie*. WBG.
- 12) Gerber, R. (2003): The global scene for geographical education. Gerber, R. ed. *International Handbook on Geographical Education*. Kluwer. (未見)
- 13) Haubrich, H.(2007): Geography Education for Sustainable Development. Reinfried, S., Schleicher, Y. and Rempfler A. eds. Geographical Views on Education for Sustainable Development. Proceedings of the Lucerne-Symposium, Switzerland, July 29-31, 2007. *Geographiedidaktische Forschungen*, **42**, pp.27-38.
- 14) Haubrich, H.(2009): Global leadership and global responsibility for geographical education. *International Research in Geographical and Environmental Education*, **18**(2), pp.79-81.
- 15) Hemmer, I.(2012): Standards und Kompetenzen. Haversath, J. *Geographiedidaktik*. Westermann. S.90-106.
- 16) Hemmer, I. und Hemmer, M.(2013): Bildungsstandards im Geographieunterricht- Konzeption, Herausforderung, Diskussion. Rolfes, M. und Uhlenwinkel, A. Hrsg. *Metzler Handbuch 2.0 Geographieunterricht*. Westermann. S.24-32.
- 17) Hoffmann, K. W.(2013): Lehrpläne und Bildungsstandards für den Geographieunterricht. Kanwischer, D. Hrsg. *Geographiedidaktik*. Borntraeger, S.94-104.
- 18) Hoffmann, K. W. und Werner-Tokarski, D.(2007): Bildung für Nachhaltige Entwicklung: Kompetenzen und Lernangebote. *geographie heute*. **255/256**, S.60-63.
- 19) Hoffmann, T.(2006): Geographische Lehrpläne in die Praxis umsetzen. Haubrich, H.

- Hrsg. *Geographie unterrichten lernen*. Oldenbourg. S.79-106.
- 20)IGU Commission on Geographical Education (1992):*International Charter on Geographical Education*. 中山修一訳(1993):地理教育国際憲章. 地理科学, **48**(2), pp.104-119.
- 21)IGU-CGE (Haubrich, H., Reinfried, S. and Scheicher, Y.)(2007): Lucerne Declaration on Geographical Education for Sustainable Development. S. Reinfried, Y.Schleicher, and A. Rempfler eds. Geographical Views on Education for Sustainable Development. Proceedings of the Lucerne-Symposium, Switzerland, July 29 - 31, 2007. *Geographiedidaktische Forschungen*, **42**, pp. 243-250. 大西宏治訳 (2008): 持続可能な開発のための地理教育に関するルツェルン宣言 (全訳). 新地理 **55**(3・4), pp.33-38.
- 22)Kent, A. (2006): Changing learning and teaching. Lidstone, J. and Williams, M. eds., *Geographical Education in a Changing World*. Springer, pp.55-71.
- 23)Kent, A. and Jackson, S. eds. (2000): *Geography and Environmental Education*. University of London Institute of Education. (未見)
- 24)Köck, H. (2005):Raumverhaltenskompetenz. Köck, H. und Stonjek, D. *ABC der Geographiedidaktik*. S.210. (未見)
- 25)Lam, C., Lin, P, Lee, J. C., Yee, S. O. and Yang, G. (2006): Geographical education in East Asia. Lidstone, J. and Williams, M. eds., *Geographical Education in a Changing World*. Springer, pp.139-154.
- 26)Lee, J., Bednarz, R. S. and Bednarz, S. W. (2007):The status of Education for Sustainable Development in the schools: United States and South Korea. Reinfried, S., Schleicher, S. and Rempfler, A. eds. Geographical Views on Education for Sustainable Development. Proceedings of the Lucerne-Symposium, Switzerland, July 29–31, 2007. *Geographiedidaktische Forschungen*, **42**, pp.171-177.
- 27)Lenz, T. 2006. Entwicklungslinien der Didaktik der Geographie zwischen Fachwissenschaft und Erziehungswissenschaft. Haubrich, H. Hrsg. *Geographie unterrichten lernen*. Oldenbourg. S.349-351.
- 28)Ministerium für Kultus, Jugend und Sport Baden-Württemberg Hrsg.(2004):*Bildungsplan 2004 Allgemein Bildendes Gymnasium*.
- 29)Obermann, H. Hrsg. (2004-2007): *TERRA GWG Geographie-Wirtschaft Gymnasium Baden-Württemberg (1,2,3/4,5/6)*.Ernst Klett Verlag GmbH.
- 30)Pinchemel, P. (1982): The aims and values of geographical education. Graves, N. ed. *New UNESCO Source Book for Geography Teaching*. Longman, pp.12-13. (未見)
- 31)Ricard, M. (2013): Trends and Issues of ESD in Europe. 国立教育政策研究所紀要, **142**, pp.9-23.
- 32)Rinschede, G.(2007):*Geographiedidaktik*. UTB.(Auflage 3)

- 33)Sato, M. and Goto, M. (2013): International comparative Studies of Curriculum Framework with regard to ESD in Schools. 国立教育政策研究所紀要, **142**, pp.73-85.
- 34)Salter, F. ed. (1982): *Learning Through Geography*. Heinemann. (未見)
- 35)Stoltman, J.P. (2006): Turning Points in geographic education. Lidstone, J. and Williams, M. eds., *Geographical Education in a Changing World*. Springer, pp.23-37.
- 36)Uhlenwinkel, A.(2013):Lernen im Geographieunterricht:Trends und Kontroversen. Kanwischer, D. Hrsg. *Geographiedidaktik*. Borntraeger, S.130-140.
- 37)Verband Deutscher Schulgeographen e.V.(1999):*Grundlehrplan Geographie*.
- 38)Viehrig, K. und Volz, D. (2013):Raumverhaltenskompetenz. Böhn, D. und Obermaier, G. Hrsg. *Wörterbuch der Geographiedidaktik*. Westermann. S.230-231.
- 39)Wardenga, U.(2002):Alte und neue Raumkonzepte für den Geographieunterricht. *geographie heute*, **200**, S.8-11.
- 40)Zentralverband der Deutschen Geographen(1980):Basislehrplan. *Geographische Rundschau*, S.548-550.

【邦文文献】

- 1)阿部 治(2006):わが国における国連持続可能な開発のための教育の10年の取組と課題—科学教育への期待をこめて—. 年会論文集, **30**, pp.355-358.
- 2)阿部 治(2009):「持続可能な開発のための教育」(ESD)の現状と課題. 環境教育, **19**(2), pp.21-30.
- 3)阿部 治(2010): ESD(持続可能な開発のための教育)とは何か. 生方秀紀・神田房行・大森亨編著『ESDをつくる』ミネルヴァ書房, pp.1-27.
- 4)池俊介(2015):ポルトガルにおける中学校地理教育の特徴と課題. 新地理, **63**(1), pp.1-18.
- 5)泉 貴久(2006):地理教育とグローバル教育. 日本地理教育学会編:『地理教育用語技能事典』帝国書院, p.112.
- 6)泉 貴久・梅村松秀・福島義和・池下 誠編(2012):『社会参画の授業づくり—持続可能な社会にむけて』古今書院.
- 7)井田仁康(2003):地理的な見方・考え方. 村山祐司編:『21世紀の地理 新しい地理教育』朝倉書店, pp.26-52.
- 8)浮田典良編(2012):『最新地理学用語辞典』原書房.
- 9)植村広美(2011):中国における国家発展戦略としてのESD. 中山修一・和田文雄・湯浅清治編:『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院, pp.229-238.
- 10)梅村松秀 (2012):IGU/CGEが提起する21世紀地理教育パラダイム—「人間—環境」

- エコシステムー. 泉貴久・梅村松秀・福島義和・池下誠編：『社会参画の授業づくりー持続可能な社会にむけて』古今書院, pp.122-128.
- 11) ト部匡司(2009)：地理教育と ESD の関係ーカリキュラム論の立場から. 地理教育フォーラム, 9, pp.4-8.
 - 12) ト部匡司(2011)：ドイツにおける ESD の概念. 中山修一・和田文雄・湯浅清治編：『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院, pp.176-180.
 - 13) 大高皇(2010)：ドイツにおける地理教育カリキュラムと地理教育スタンダードの展開ーバーデン＝ヴュルテンベルク州教育スタンダードを事例としてー. 社会科教育研究, 110, pp.130-142.
 - 14) 神田房行(2010)：環境教育概念の進化. 生方秀紀・神田房行・大森亨編著：『ESD をつくる』ミネルヴァ書房, pp.43-63.
 - 15) 金 玆辰(2008)：地理的探求に基づく学習の意義ー「地理教育国際憲章」を手がかりにー. 新地理, 56(1), pp.1-14.
 - 16) 金 玆辰(2012)：地理教育の世界的動向：カリキュラム分析を通して. E-journal GEO, 7(1), pp.82-89.
 - 17) 草原和博(1996)：社会科学科としての地理教育ーHSGP の再評価ー. 社会科研究, 44, pp.41-50.
 - 18) 草原和博(2006)：地理教育の社会化ーわが国の地理教育変革論の体系と課題ー. 社会系教科教育学研究, 18, pp.1-10.
 - 19) 草原和博(2007)：地理教育の公民教育化ー地域を単位にした総合的な社会研究ー. 社会科研究, 66, pp.11-20.
 - 20) 草原和博(2008)：地理教育改革のオルタナティブー教科構造の原理的考察を踏まえてー. 社会系教科教育学研究, 20, pp.21-30.
 - 21) 「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」関係省庁連絡会議(2006)：わが国における「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」実施計画.
 - 22) 熊野敬子(2001)：国際地理学連合・地理教育委員会の国際宣言「多文化社会の市民を育てる地理教育」ー訳ー. 地理教育フォーラム, 2, pp.7-8.
 - 23) 阪上弘彬(2012)：高等学校地理におけるクロス・カリキュラム理論を取り入れた ESD 授業開発. 新地理, 60(2), pp.19-31.
 - 24) 阪上弘彬(2013)：国際地理学連合・地理教育委員会による ESD の展開とドイツにおける取り組み. E-journal GEO, 8(2), pp.242-254.
 - 25) 佐藤真久・阿部治監訳(2006)：国連持続可能な開発のための教育の 10 年(2005～2014 年)国際実施計画. ESD-J2005 活動報告書, pp.173-193. UNESCO(2005): *United Nations Decade of Education for Sustainable Development (2005-2014) International Implementation Scheme*. UNESCO.
 - 26) 志村 喬(2010)：『現代イギリス地理教育の展開』風間書房.

- 27)志村 喬(2014):国際地理学連合(IGU)の地理教育委員会(CGЕ)にみる地理教育研究潮流と日本. 人文地理, **66**(2), pp.30-50.
- 28)高雄綾子(2010):ドイツにける ESD の取組. 国立教育政策研究所『学校教育における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究中間報告書』国立教育政策研究所, pp.133-144.
- 29)高山芳治(1973):西ドイツにおける地理教育の目標をめぐる論争について—S.B ロビンソンと E.エルンストの諸論を中心として—. 社会科研究, **22**, pp.74-81.
- 30)田中治彦(2008):これからの開発教育と「持続可能な開発のための教育」. 山西優二・上條直美・近藤牧子編:『地域から描くこれからの開発教育』新評論, pp.17-36.
- 31)田部俊充・永田成文(2010):米国地理教育における ESD の現在—北米環境教育学会報告およびポートランドでの取組み. 地理, **55**(9), pp.104-110.
- 32)トランスファー21 編著, 由井義通・ト部匡司監訳, 高雄綾子・岩村拓哉・川田 力・小西美紀訳(2012):『ESD コンピテンシー 学校の質的向上と形成能力の育成のための指導指針』明石書店.
- 33)長島啓記(2009):教科書制度と教育事情 7.ドイツ. 国立教育政策研究所:『第3期科学技術基本計画のフォローアップ「理数教育部分」に係る調査研究 [理数教科書に関する国際比較調査結果報告]』国立教育政策研究所, pp.42-46.
- 34)中山修一(1991):『地理にめざめたアメリカー全米地理教育復興運動—』古今書院.
- 35)中山修一(2003):「ユネスコ協同学校(ASP)」と「持続可能な開発のための教育(ESD)」の国際動向. 地理教育フォーラム, **4**, pp.89-99.
- 36)中山修一(2009):地理教育国際憲章. 中村和郎・高橋伸夫・谷内達・犬井正編:『地理教育の目的と役割』古今書院, pp.212-214.
- 37)中山修一(2011):地理 ESD 教材開発の目標, 内容, 方法. 中山修一・和田文雄・湯浅清治編:『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院, pp.10-15.
- 38)中山修一・佐藤真久(2011):国連 ESD の 10 年ユネスコ国際実施計画の策定とアジア太平洋地域における ESD の展開に向けて. 中山修一・和田文雄・湯浅清治編:『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院, pp.16-25.
- 39)中山修一・和田文雄・湯浅清治編(2011):『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院.
- 40)中山修一・和田文雄・高田準一郎(2012a):持続発展教育(ESD)としての地理教育. E-journal GEO, **7**(1), pp.57-64.
- 41)中山修一・和田文雄・湯浅清治編(2012b):『持続可能な社会をめざす地理 ESD ガイド』啓文社.
- 42)西脇保幸(1993):『地理教育論序説』二宮書店.
- 43)西脇保幸(1998):地理教育における技能の育成. 地理学評論, **71A**, pp.122-127.
- 44)服部一秀(2007a):ドイツ地理学会版教育スタンダードの地理学力像[その1]. 山梨大学教育人間科学部紀要, **9**, pp.122-132.

- 45)服部一秀(2007b)：ドイツ地理学会版教育スタンダードの地理学力像[その2]．山梨大学教育人間科学部紀要，**9**，pp.133-146.
- 46)服部一秀(2009)：『現代ドイツ社会系教科課程改革研究』風間書房．
- 47)早川東三・工藤幹巳編著(2005)：『ドイツを知るための60章』明石書店．
- 48)原田信之(2006)：教育スタンダードによるカリキュラム政策の展開—ドイツにおけるPISA ショックと教育改革—．九州情報大学研究論集，**8**(1)，pp.51-68.
- 49)原田信之(2012)：コンピテンシー志向のカリキュラム—ドイツ・チューリンゲン州基礎学校 2010 年版学習指導要領—．岐阜大学教育学部研究報告，人文科学 **61**(1)，pp.141-151.
- 50)樋口裕介(2007)：1970 年代西ドイツにおける「カリキュラム」研究と伝統的な「レールプラン」研究との比較．教育方法学研究，**33**，pp.97-108.
- 51)水岡不二雄(1981)：ドイツ連邦共和国の地理教育改革．地理学評論，**54**(4)，pp.177-195.
- 52)村山朝子(1995)：スウェーデンにみる地理教育の再生．新地理，**47**(6)，pp.65-79.
- 53)森川 洋・由井義通・フンクカロリン(2012)：ドイツの地理学．地学雑誌，**121**(4)，pp.601-616.
- 54)森本直人(2000)：態度目標．森分孝治・片上宗二編：『社会科重要用語 300 の基礎知識』明治図書，p.119.
- 55)山口幸男・西木敏夫・八田二三一・小林正人・泉 貴久編(2008)：『地理教育カリキュラムの創造』古今書院．
- 56)山本隆太(2012)：ドイツの地理教育における「システム」論—人間—空間相互関係から人間—環境システムへ—．早稲田大学大学院教育学研究科紀要別冊，**20**(1)，pp.177-187.
- 57)山本隆太(2014a)：ドイツにおける地理学再統合議論と地理教育との関係．早稲田大学大学院教育学研究科紀要，別冊 **21**(2)，pp.153-164.
- 58)山本隆太(2014b)：ベルリンの地理教科書にみる環境概念の学習— Diercke Geografie (ギムナジウム 9/10 学年) の例．学術研究 人文科学・社会科学編，**62**，pp.239-252.
- 59)由井義通・阪上弘彬(2012)：ESD の観点からみたドイツ地理教育スタンダードの分析．学校教育実践学研究，**18**，pp.75-86.
- 60)ユネスコ作成，松井上席研究員訳(2004)：仮訳(未定稿)国連持続可能な開発のための教育の 10 年 2005—2014 国際実施計画案．UNESCO(2004):*DESD Draft International Implementation Scheme*. UNESCO.
- 61)ユネスコ作成，国立教育政策研究所国際研究・協力部訳(2010)：『国連持続可能な開発のための教育の 10 年中間レビュー ESD の文脈と構造』．UNESCO(2009):*Review of Contexts and Structures for Education for Sustainable Development 2009*. UNESCO.